

## 人間科学部の節目に際して

学部長 濱 口 晴 彦

人間科学部は1987年に創設されてから10年を経過しました。1997年に学部創設10周年の記念行事をいくつか企画しました。6月上旬には、学部ウィークを行い、講演会や学生企画のイベント、学生といっしょに教職員も参加したスポーツ大会などを通して、人間科学部の日頃の成果やあり方、明日へのエネルギーを確認することができました。

また、10月中旬には西早稻田キャンパスにおいて、人間科学部のキャンパス造成工事期からの10数年の折々について、写真・教員の業績目録・入賞論文やスポーツの活動歴などによる学生の社会的な活動記録・出版物・文書などにより、多彩で多面的な展示を行いました。この展示は、総合学術情報センターの展示室で行ったということで小じんまりとしていたけれども、要にして簡を得た好ましい催物で、関谷武彦人間科学部事務長をはじめ事務部門のスタッフの工夫を随所にうかがうことができた、展示のための展示でない成功した展示でありました。同展示の最終日はちょうどホームカミングデー・校友大会の日と重なり、沢山のOBやその家族の方々にも見ていただき、予想以上の人びとに人間科学部の姿を瞥見していただける機会となりました。ちなみに、同展示の第1号見学者は早大生とその連れの人科受験希望者でした。

さらに、12月中旬には西早稻田キャンパスで行った展示を所沢キャンパスでも行い、5月の教授会で授けられた「人間科学部宣言」を刻んだ特製のプレートを事務所に設置し、学部創設の気概を広く永くとどめる除幕の行事を行いました。

このように人間科学部は昨日も今日も、明日へ向かって着実に歩みつづけているのですが、「ローマは一日にして成らず」のたとえは真実であることを噛みしめざるをえません。

と言いますのは、1997年の記念行事にふれてきましたが、そのどの部分を取りだしても、今年をもって定年退職される上田雅夫、黒田勲の両教授の事蹟が歴然とそこに刻まれていることに、いや応なしに気づかされるからです。

上田先生は学部創設の産婆役の有力な一人であって、先生のご尽力あって人間科学部の輪郭は今日あるような形をもつことになったのであり、学部史に濃い足跡を残されています。

黒田先生はヒューマンエラー研究の第一人者で、航空機事故撲滅に果されているお姿は、映像・音声・活字などで、常日頃周知されているとおりです。先生ほど専門家として職務のために数多くの国々を訪れた人はいないのではないのでしょうか。先生のいつも絶やさぬにこやかな笑みは、緊張を強いられるご専門の国際会議で、ミスター・クロダとして今後も心から迎えられることでしょう。益々のご活躍が期待されるところです。

学部構成員一同に代り、今年ご退職される上田雅夫、黒田勲両先生のこれまでの学問と学部へのご尽力に感謝申し上げ、いっそうのご健勝を願う次第です。